

山行報告書

計画書整理 No.

期 間：2025年2月7日（金夜）～2月10日（月）

種 別：合宿 例山 個人 岳連 協会

山 域：南アルプス荒川氷瀑群（アーリースプリング、右のナメ滝）

参 加 者： リーダーAya（東京緑山岳会）、記録河本嘉照（横須賀山岳会）

コースタイム

2/7

横須賀 19:30 東京 21:00 道の駅身延（車中泊）23:00

2/8

道の駅身延 5:30 奈良田ゲート 7:00 野呂川発電所付近（ベース構築開始）10:00 下見開始 11:30 荒川氷瀑群下見（夢のブライダルベール、アーリースプリング、右のナメ滝等）13:00 ベースキャンプ 16:30

2/9

BC6:30 アーリースプリング取付 8:00 アーリースプリング終了点 15:00 アーリースプリング取付 16:45 BC17:30

2/10

BC6:00 右のナメ滝取付 7:19 右のナメ滝終了点 15:00 右のナメ滝取次 16:45 ベースキャンプ撤収 17:30 奈良田ゲート 20:45

記録

2/7

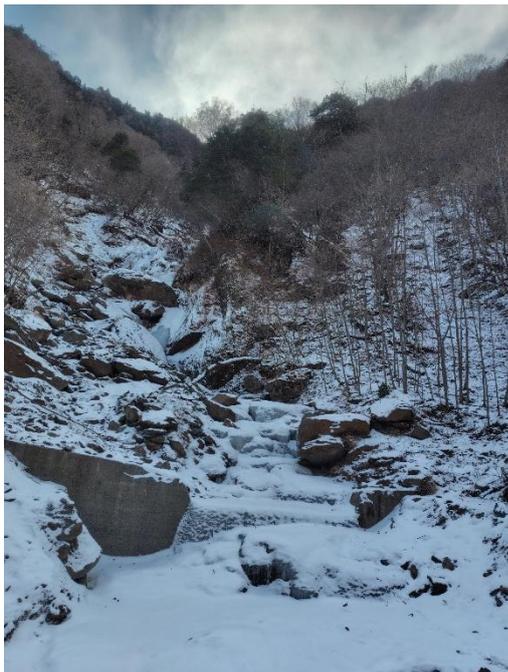
この日は移動日。本来であれば横須賀出発 19:00 東京某所 20:00 の予定であったが、当方準備に手間取り、19:30 出発となってしまった。直前になり変更の旨を、今回のリーダーAya さんに連絡を試みるも、連絡つかず。独自の判断でリーダーをお向かえすべく、東京某所へ向かう。20:26 に到着し再度連絡を入れる。程なくし、リーダーが現れた。私の遅参に対し色々と言を呈される。私がリーダーなら同じ事を言うであろう。確かに御尤もな意見で以後気を付けなければならないと思ひ、反省の念を抱きつつ目的地へ向かうべく車を走らせる。移動中に今夜の寝床のプランを事前

に聞かされていなかったが、車中で検索してもらい道の駅身延とした。23:00頃到着し1:00には就寝していたと記憶している。

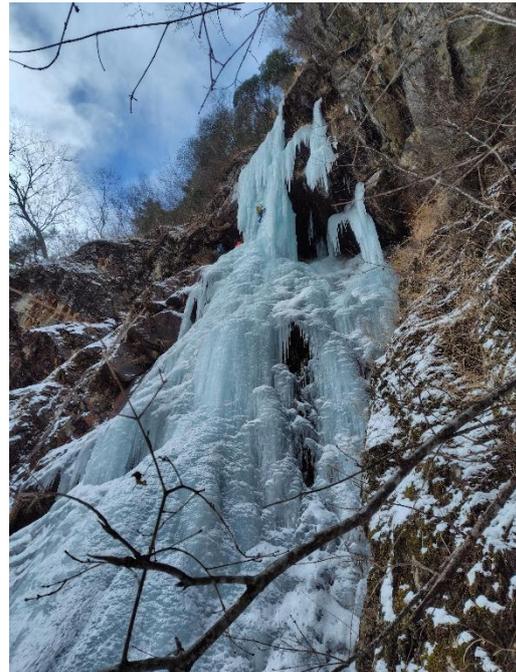
2/8

5:30に起床し、その後車で近場のコンビニへ向かう。きちんと起きる事はできたが、目覚ましをかけ忘れていた事に対して朝からリーダーに叱られてしまう。昨日からやらかしている私。叱られながらも朝食を済ませ、奈良田ゲートに向けて出発した。ゲート付近に駐車し、7:00に出発した。

この日の核心はこのゲート越えで、重荷で2.5m程のゲートを越えなければならない。この事にリーダーは謎に不安を抱いていたので、まずは私が越えてみることにした。ゲート対面左側に弱点を見つけ、難なく越える事ができた。越えた後、ゲートを振り返ってみると、私はドアノブが付いている事に気づいた。興味本位で回してみると、なんと内側からはゲートのドアを開ける事ができた。ここはお手柄、リーダーに褒められる。少しは機嫌を取り戻して頂いた模様であろうか。ここから野呂川発電所迄はコースタイムで3時間。とっとと歩いてBCを構築したいところであったが、リーダーのペースが上がらない。聞くといつもは他の男性陣に装備を多めに持ってもらっていて、こんなに重いのは久しぶりとの事。これは遠回しに私に荷物を持ってと言っているのかな。いやいや、自分も十分な程の共同装備を担いでいるので、条件は一緒。軽く聞き流しておいた。そんな感じで10:00に野呂川発電所に到着。まずはベースキャンプを構築すべく適地を探す。初めにリーダーが選定した場所は緩傾斜になっており、あまり良い場所ではないと感じたので、もう少し上に上がろうと提案した。水場が遠くなるのでと否定的であったが、そこは説得し100m程上がった所に適地を発見した。下はフラットで、落ち葉に覆われていて、冷たくない。水場は少し遠くなったが、私が考える最適な場所を発見できた。ベースキャンプを構築し下見を開始したのが11:30と記憶している。



2ルンゼ



夢のブライダルベール

ベースキャンプから林道を発電所付近に少し戻ると 2 ルンゼの取付が目の前に現れる。氷はそこまで発達してないまでも、登れない事も無さそうと言うリーダーの判断であった。次に 3 ルンゼ氷瀑郡、夢のブライダルベール、アーリースプリング、右のナメ滝の下見に向かう。5 分程林道を上がった所に取付に向かう沢にぶつかる。その沢筋や左の尾根を通り 30 分~45 いくと、氷瀑群が現れた。このアプローチがとても歩き辛い。初日私はアイゼン無しでアプローチしたが、所々凍っているのでチェーンスパイク等があると便利かも知れない。写真の記録では 14:00 頃夢のブライダルベールに到着となっている。登攀中のパーティーをしばらく眺めた後、我々はアーリースプリングの調査に入る。これがそうなの？と思う程氷は発達していなかったが、リーダーの判断では行けるとの事だった。次に右のナメ滝を調査したが、こちらは私が見ても問題なく登れると思った。これらを注意深く調査していたら、それなりの時間になってしまい、15:45 頃ベースキャンプへ戻るべく下山開始。16:30 頃 BC に到着したと記憶している。テントに入る前の生活水の確保だが、今回は野呂川本流から水を取った。本流なのでちょっと気が引けたが、煮沸して摂取すれば問題ないであろうと自分に言い聞かせそうした。その後テントへ戻り夕食を取り、今後の行先を話合う。とりあえず、氷結する事が珍しいと言われているアーリースプリングをやろうと言う話に纏まった。行先を決め 21:00 には就寝した。

2/9

この日は 4:00 起床。6:00 には出発したかったが、余程時間を意識しない限り 2 時間で準備するのは厳しく思えた。結局 6:30 スタートとなった。アーリースプリング迄の登りがとにかく歩き辛い。この日もアイゼン無しでアプローチしたがやはりちょっと危険を感じた。(リーダーはこっそりチェーンスパイクを使用していた模様) 7:30 頃取付に到着、8:00 に登攀開始となった。実際の登攀内容は以下に纏める。

1P 目 20mⅢ+(体感)Aya リード

本来 1P 目と思われる部分だが、この日は全く氷結していなかった。枯葉で覆われた、足元がどうなっているか分からない急斜面を上がる。とりあえずロープを出さず上がれる所まで上がる。最後の 2m 程が嫌らしくロープを出してもらっても、しっかりとしたアンカーは取れなかった。8:00 頃

2P 目 3mⅢ+河本

Aya リーダーからもちょっと上がって、ハーケンで支点を取って欲しいと指示を受ける。3m 上がるのは良いが、正直この事に何の意味があるのか分かり兼ねた。とりあえず指示に従い土壁にハーケンを打ち込むも、全く効いていない感じ。上がってきたリーダーもイボイノシシを打ち足していたが、どちらも回収時手で引っこ抜ける始末で、全く効いていなかった。3m 上がって、足場も支点も更に悪くなり、正直この行為にデメリットしかないと感じた。8:30 頃

3P 目 25mⅣ+Aya

ドライツリーリングで3m程トラバースした後、左上。このトラバースが極悪であった。頼むから落ちないでくれと祈りつつ、やめた方が良いと助言を促すも聞き入れてもらえず、それでも何とか氷結状態の決して良くはない所まで辿り着き、1本目のスクリュウを決める。これで少し安心できた。薄氷のアイスセクションに移り、その後は快調にロープを伸ばしてくれ、適当な所でピッチを切った。河本はフォロー時、トラバースで普通にテンションをかける。何とも嫌らしいピッチになったが、きっと彼女なりに勝算があったのだろう。ここを抜けなければ、アーリースプリングはやれなかった。若干無謀とも思えたが、この辺りのリーダーのクライミング力はさすがであった。9:00頃

4P目 20mIV-河本

あれだけのファイトを見せられては、私もリードする他ない。余裕がなく記憶があやふやなのだが、とにかく攀じ登った。トポを参考にしてみると、どうやら本来の1P目の終わりから2P目始め辺りをリードした模様。にわか仕込みのフィフィテンションを駆使し何とかやりとげる。10:30頃

5P目 45mIII Aya

この辺りは概ねスムーズにリードしてくれたと記憶している。しかし当方、連打されたスクリュウの回収に難儀し、指に激痛を覚える。正直吐気を模様す程の激痛に見舞われ、ビレイポイントに到着後しばらく回復を待つ時間をもらった。11:45頃

6P目 15mIII-河本

記憶があやふやだが、懸垂点を探すべく左の急な灌木帯に出る。適当な所でピッチを切る。13:15頃

下降ルート

トポ上では尾根を使い30分で降るか、急な灌木帯を懸垂となっているが、両者この山域は初見であったため、尾根道が良く分からず。急な灌木帯を懸垂する事にした。14:30頃下降を開始した。

下降1P目 20mAya 先行

色々懸垂下降にはやり方があると思われるが、Ayaリーダーはダブル50mロープを結束し束ね、自身のハーネスにぶら下げ捌きながら下降する手法をとった。恐らくこのやり方ではロープが直ぐにキンクしやり辛いと思う旨をアドバイスするも聞き入れてもらえず、そのままスタート。案の定、直ぐにスタックしていた。いくら待っても中々降りてくれないので、半ば強引にこちらから指示し適当な所でピッチを切る様にしてもらった。この1回の懸垂だけでも1時間以上の時間を要した。

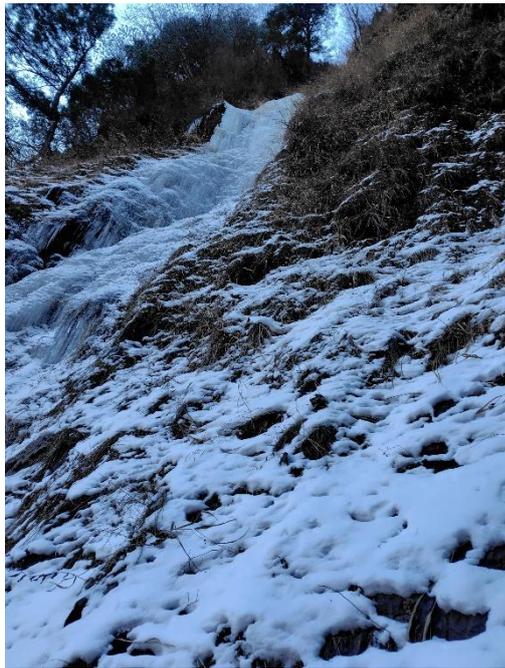
下降2P目 50m(一部空中懸垂)河本

色々懸垂下降にはやり方があると思われるが、私が考える最適解は上半分を投げて、下半分自分で持つである。これでもやはりロープが絡まる時は絡まる。それらを何とか処理し、適当な太い木を見つけピッチを切る。

下降 3P 目 50m 河本

この辺りも記憶があまりないのだが、確か3回の懸垂で16:30頃に取り付きに戻ってきたと記憶している。

慣れたパーティーなら1日2ルートくらいできそうなスケールだが、今の我々には1ルートでお腹いっぱい。17:30頃、完全に日がくれる前にベースキャンプに戻れて一安心した。水を汲み、食事を済ませ、21:00頃就寝したと記憶している。



アーリースプリングの悪い取付



状態の良い右のナメ滝

2/10

この日は6:00出発を目指し、3:30起床とした。やはり準備にはそのくらいかかるのであろうか。もう少し工夫して、2時間で準備を整える訓練をしたいところである。この日も例の歩き辛いアプローチを登る。この日はスタートからアイゼンを着用したが、下がボコボコしている上に枯葉が覆い茂っていてこれはこれで歩き辛い。少しでもアイゼンが消耗しない様に気を使いながらのアプローチした事を思い出す。写真の記録では7:19に登攀開始となっている。実際の登攀内容は以下に纏める。

1P 目 45mⅢ-(河本リード)

本来ここは登らなくても良いのかなと思う傾斜の緩いナメ。絶妙な傾斜で後半脛脛がかなり辛くなる。すっかりマスターしたフィフティンションで休みながら登っている事にリーダーから苦言を呈される。7:19頃

2P 目 40mⅣ (Aya)

トポ上の1ピッチ目にあたる部分だと思われる。まだまだ序盤で傾斜もそれほどない。快調にロープを伸ばしてくれたものの、これでもかと打ち込まれたスクリュウの回収に難儀する。キンキンに凍ったスクリュウを掃除しながらのフォローなのでそれなりに時間がかかる。寒さで指が痛いので、フィフィテンションしながら指の回復を促すも、リーダーはどうもこのフィフィテンションが気に食わない模様であった。再度注意が入る。8:17頃

3P 目 30mⅢ (河本)

この辺りもまだまだ傾斜が緩く正にナメ滝と言った感じ。快調にロープを伸ばし、ここで支点を構築しろと言わんばかりの灌木でピッチを切った。10:37

4P 目 30mⅣ+ (Aya)

このルートのコア部であった。左、右とルートは取れるが、左側が繋がっていない様子なので右ルートを選択。リーダーの安定したリードは流石であった。12:00頃。

5P 目 50mⅣ+ (河本)

25m程歩くと氷瀑にあたる。幅が広くどこでも登れそうだが、右側の弱点をつく。トポ上ではこのピッチで終了。

13:00頃?

6P 目 50mⅢ- (Aya)

実質クライミングは終了しているが、下山道を探すべく少し上がる。

7P 目 25m (河本)

トポに記載されている下山道(尾根)を探すべく、クリスマスルンゼ方面へトラバースを指示される。

下降

下山は30分尾根歩きとなっているので、このまま150m程詰めれば自然と尾根に出られるのではと伝えるも聞き入れてもらえず。リーダーはクリスマスルンゼ上部を更に右岸方面へトラバースを開始した。適当な斜面を見つけて、これがその尾根だと主張するも明らかに違っていた。結局この尾根は歩ける様な傾斜ではなく、懸垂下降となった。今まで山行から、リーダーは懸垂下降が苦手と判断、私が先行して懸垂下降を開始した。(14:30頃)

因みに懸垂をすると初めから決めているのであれば、右のナメ滝左岸側が1番分り易く簡単に下降できると思われる。

1P 目

30m

私はいつも懸垂下降のやり方は同じである。上半分のロープを投げ、下半分のロープは自分で持つ(スリング等で束ね、ハーネスにラッキングしておく)。半分降ったら下半分を投げる。もう何度も見せているので、このやり方を理解してもらっていると思いきや、下半分のロープをおもむろに投げるリーダー。手順が逆なのでやり直しをお願いしたところ、いつもリーダーが行っている手法を試して欲しいと言われる。やり方としては、懸垂下降のスタート場所にロープを残置し、フォロワーにロープを送り出してもらうと言う方法。実際試してみたのだが、このやり方にあまりメリットは感じられず(理由は割愛させて頂く)。懸垂用残置ステナワを発見したので、そこでピッチを切った。

2P 目 50m

大滝を空中懸垂。一部脆そうな巨大つららが気になったので、蹴り落としながら下降。ロープがギリギリで焦った。

3P 目 50m

一部空中懸垂。ロープがいっぱいなので、ピッチを切るも適当な支点が見付からず。その下もまだまだナメ滝と言った感じで、クライムダウンできない事はないが時間がかかりそう。色々考えたが、アバラコフを構築した。アバラコフ構築中もリーダーから色々とパニック気味に指示が飛ぶものの、雑音を遮断し支点構築に全力集中した事を思い出す。一発で構築できた。

4P 目 40m

ナメ滝を懸垂下降。やっと歩ける所まで到達。スタート地点に着いたのが16:00頃と記憶している。

下山

17:00頃、ベースキャンプに到着。テントを撤収し18:00頃奈良田へ向けて出発。写真の記録では20:45に奈良田に到着している。帰りは荷物が軽くなった分、リーダーは元気であったが、私は凍ったテントを担いでいたので、行きとさほど重さが変わっていない気がしていた。ゲートまでしっかり3時間かかった。

感想

今回の山行も、Ayaさんの登攀力なくして達成できるものではなかったと思います。悪い所は大体リードして頂き感謝致します。がしかし、懸垂下降にはやはり今一度技術を再確認された方が良い気がしております。特にロープの処理に関して、オートブロックでのバックアップの有無に関わらず、末端を結ばず懸垂すればロープが足らなくなった時はスッポ抜けます。結び目があるとロープ回収に難儀するとの見解でしたが、どちらのリスクを取るかは言わずもがなと感じました。今後、いつか大きな事故

に繋がると危惧しております。注意喚起の意を込めて、あえて報告書に記載させて頂きました。

私としては谷川へ向けた良いトレーニングになりました。アイスの登攀技術もまだまだな部分が多いので、来期も積極的にアイス山行を取り入れていこうと思いました。またご一緒させて頂ければ幸いです。これからも宜しくお願い申し上げます。

横須賀山岳会
河本嘉照